

小嶋 亮平 様 発表資料

平成29年7月27日

第2回東京都地域福祉支援計画策定委員会

平成29年7月27日

社会福祉法人江戸川区社会福祉協議会 地域包括ケアシステム拠点「なごみの家」 平成28年度活動報告



なごみの家の3つの機能

相談機能とサロン(交流スペース)の機能をもつ拠点は全国的にも多数ある。しかし、ネットワーク機能を加えた拠点は、江戸川独自で新しい試みである。

なんでも相談

身近な窓口として、どんなことでも気軽にご相談ください。
専門スタッフが対応します。

なごみの家は地域の拠点として、地域の様々な方々と連携し、その地域特性を踏まえつつ、顔の見える関係の中で有機的に機能しながら、まちづくりを進めていく。

なごみの家



子どもから熟年者まで 誰でも集える交流の場

「散歩の途中にちょっと寄り道」
気軽に立ち寄っておしゃべりできる地域の交流の場があります。
お子さんへの学習支援・食事の提供も行います。

地域のネットワークをつなげます

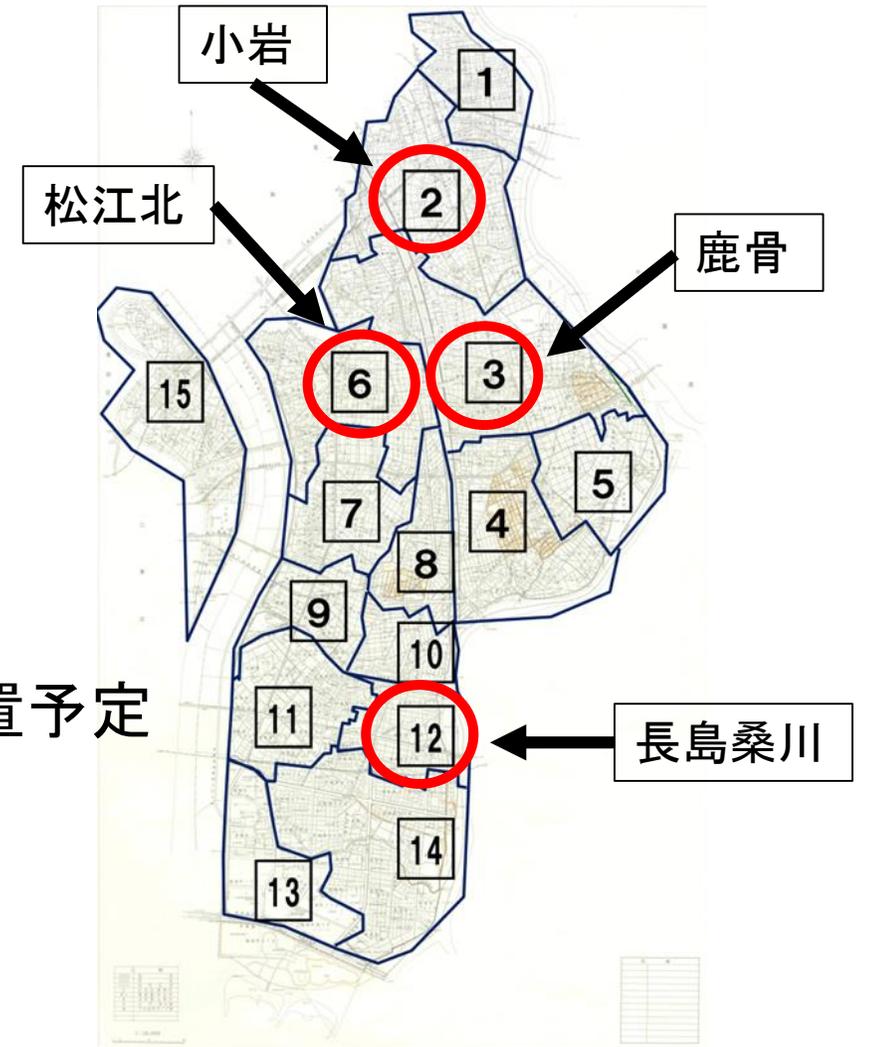
個人、医師会などの医療・介護事業者、町会・自治会、民生・児童委員、警察・消防などが地域の皆さんのために協力関係を築き、支えあい、助けあいの支援を行っていきます。

江戸川区概況

(2017.7.1現在)

人口	694, 812人
年少人口(0~14歳)	91, 721人
年少人口率	13. 2%
高齢人口(65歳~)	144, 973人
高齢化率	20. 9%

日常生活圏域(2中学校区)に1ヶ所、なごみの家を設置予定
H28年度:小岩、松江北、長島桑川の3ヶ所開設
H29年度:鹿骨開設



居場所(サロン)機能

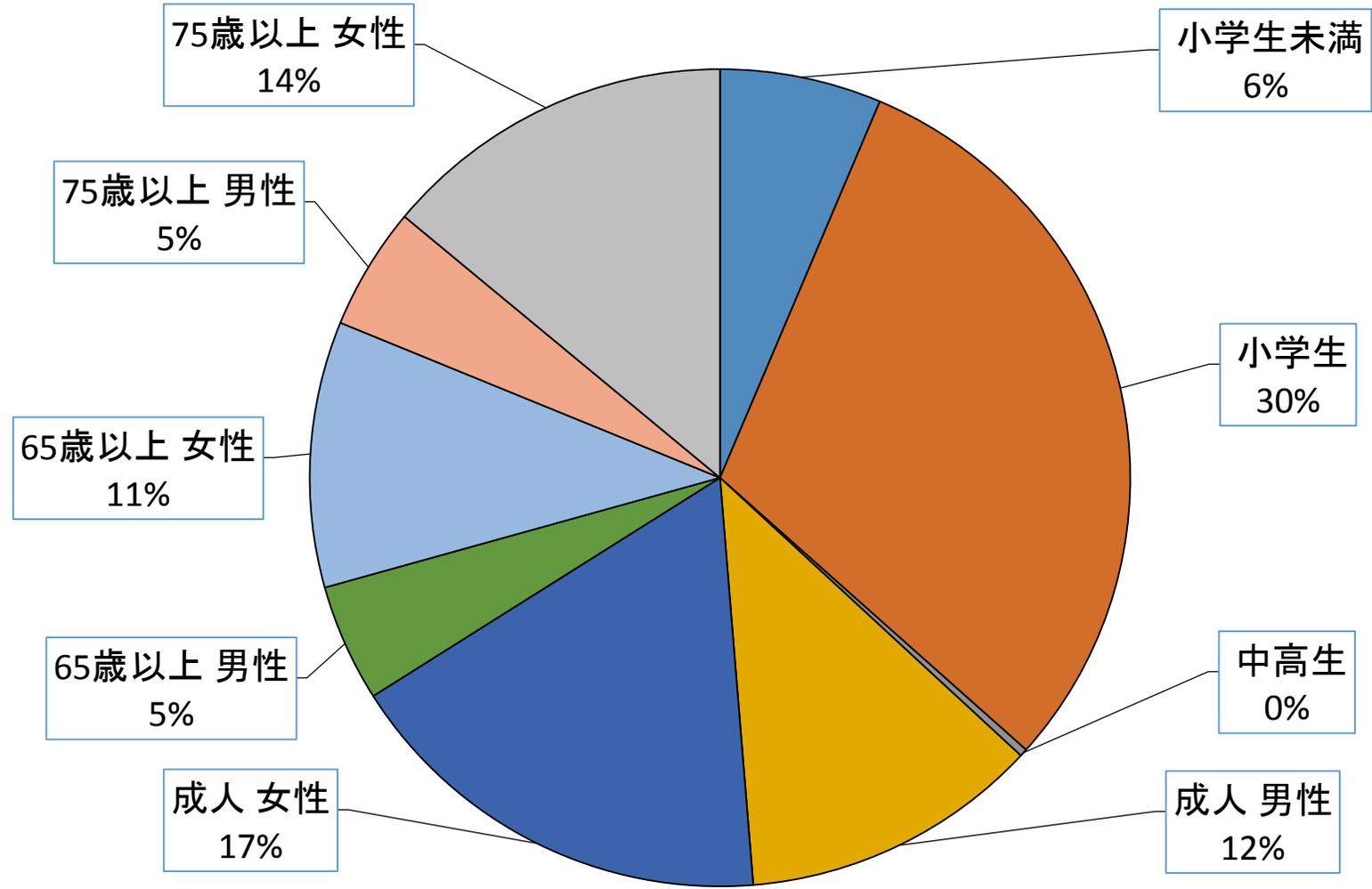
- 子どもから熟年者まで誰でも集える
地域の憩いと交流の場。

「散歩の途中にちょっと寄り道」し気軽に立ち寄っておしゃべり・・・

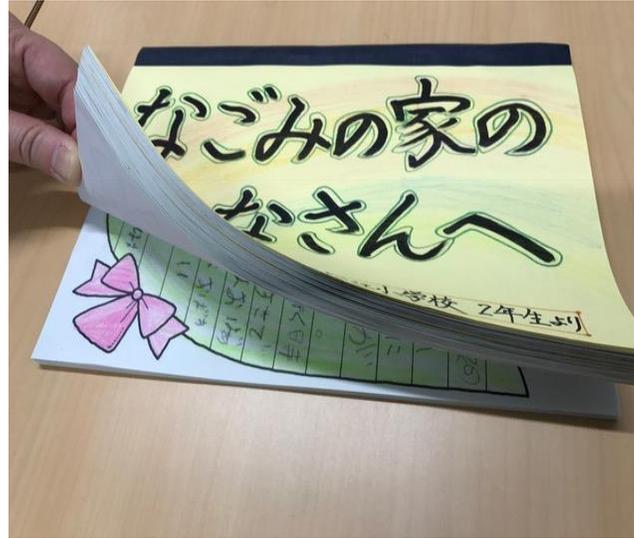
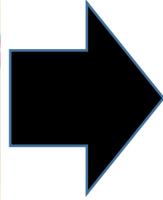


来館者 属性割合

年間来館者数合計 4,913人



地域のつながり



管理スタッフとなごみの家に来所される方々で、開所以降、お手玉づくりをしてきた。小学校の生活科の授業では、昔遊びというものがある。既製品のお手玉ではなく、手作りのお手玉で遊んでほしいと、【なごみの家に来ているおばさん達から、なごみの家に来てくれている子どもたちへの贈り物】として近くの5つの小学校に寄贈。

近隣小学校の2年生69名から、校長先生のお手紙付きで、お礼のお手紙集が届いた。



5月7日の1周年に向けて、地域の方とスタッフで千羽鶴を作成。商店街のお花屋さんにもリボンをいただく。

ニコニコカフェ（認知症カフェ）、スツキリ体操



月1回、土曜日14:00～15:30
熟年相談室江戸川区医師会、
熟年相談室アゼリーえどがわが主催。



月1回、日曜日13:00～14:00
アゼリー学園の理学療法士が主催。

子ども食堂

「地域の子どもを地域で育てる」というコンセプトで地域のボランティアの皆様のお力添えで、大家族のような雰囲気で開催している。
定員は、15名。参加費は、子ども100円、大人300円。
毎月最後の水曜日に開催している。

松江北子ども食堂参加者				
	開催日	子ども	大人	ボランティア
1	6月29日	18	5	7
2	7月27日	15	5	7
3	8月24日	12	0	6
4	9月28日	4	1	7
5	10月26日	13	5	7
6	11月29日	11	3	8
7	12月21日	17	3	8
8	1月25日	7	3	8
9	2月22日	13	3	7
10	3月29日	4	6	7
計		114	34	72



学習会

- 毎週土曜日9:30~12:30

NPO法人キッズドアに委託

個人個人に合わせた学習プログラムで、実施。

学習能力の向上が目的ではなく、学習習慣の定着を目指す。

学習をした後、なごみの家の職員がつくった食事を、キッズドアの学生ボランティアと共に食べて、振り返りをする。



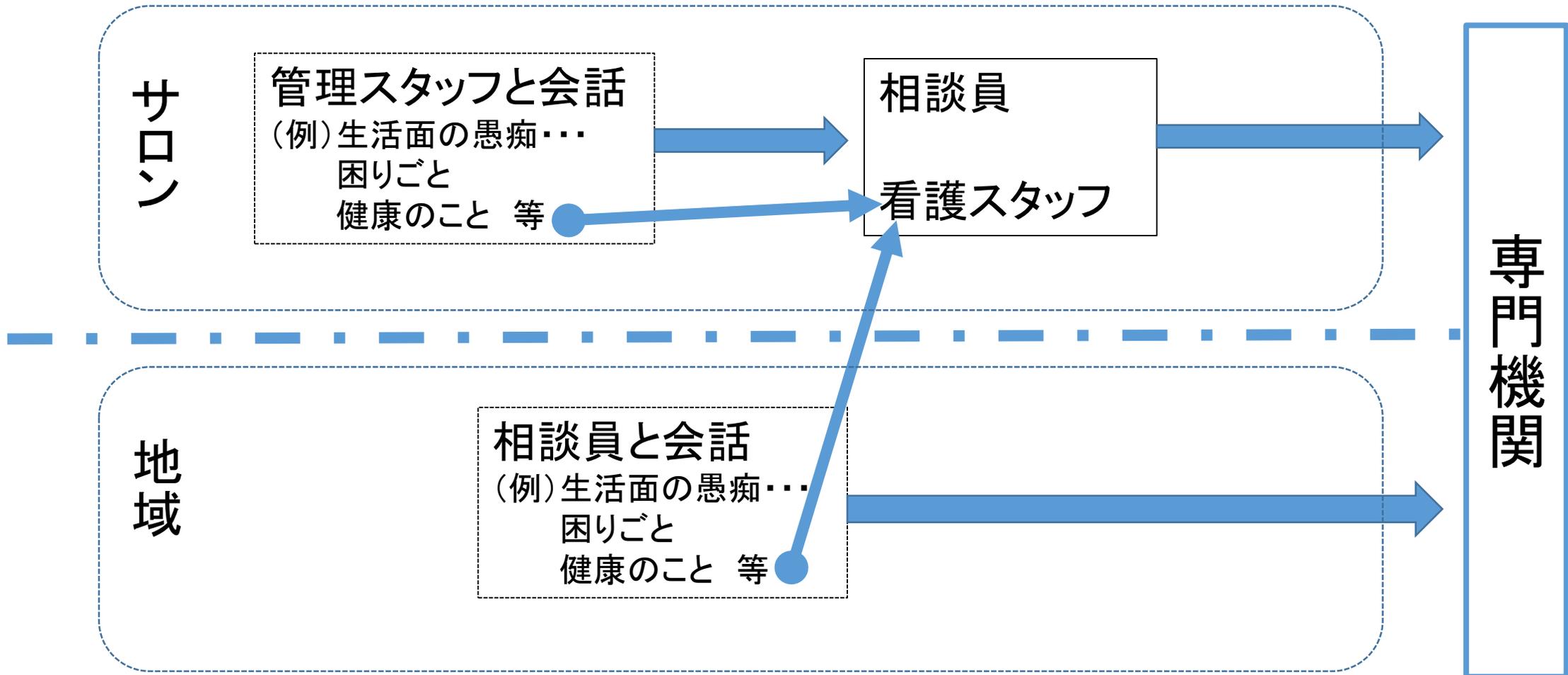
学 習



食 事

なんでも相談

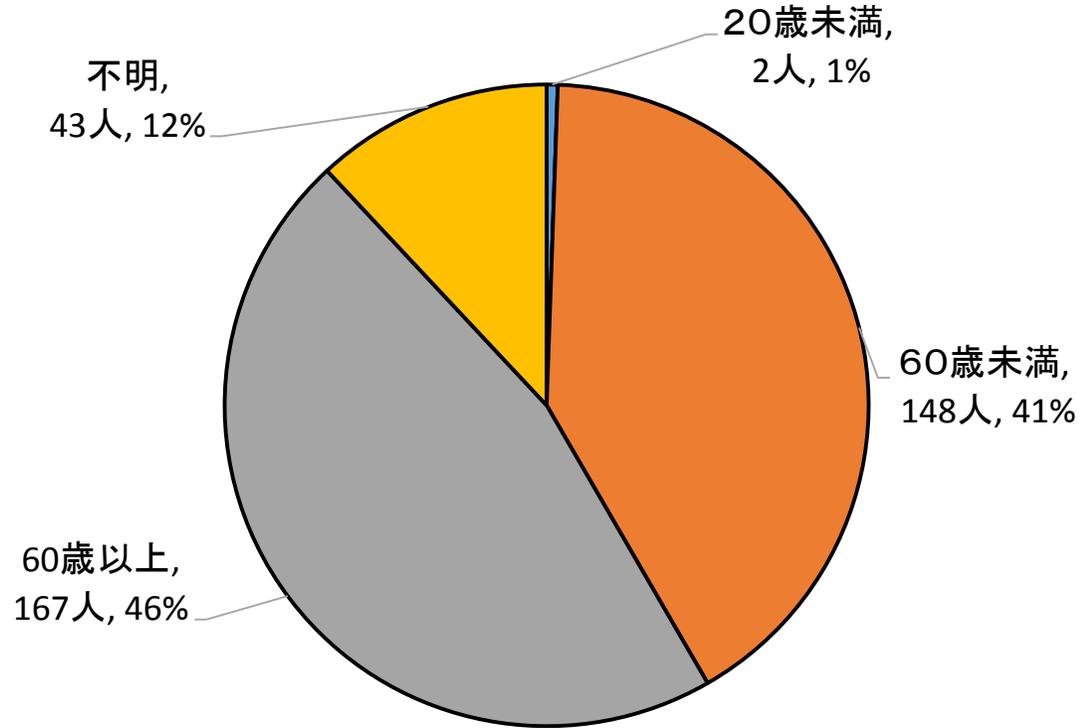
- ・地域の身近な窓口として、どんなことでも気軽に相談できる。



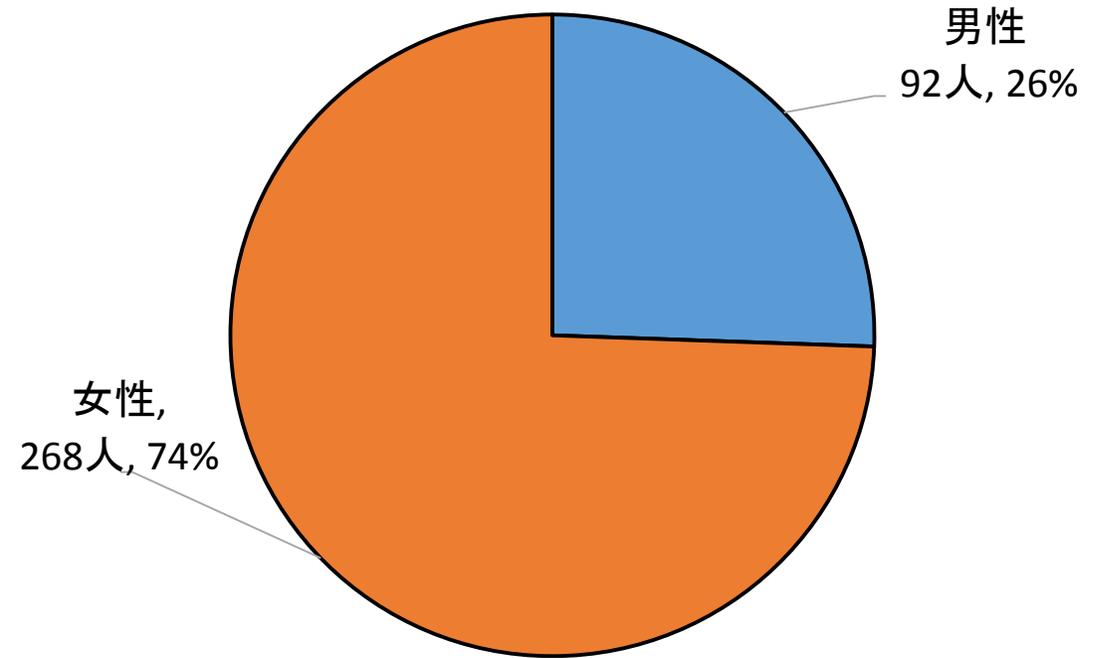
相談属性：年齢、性別

年間相談件数合計：360件

相談属性：年齢

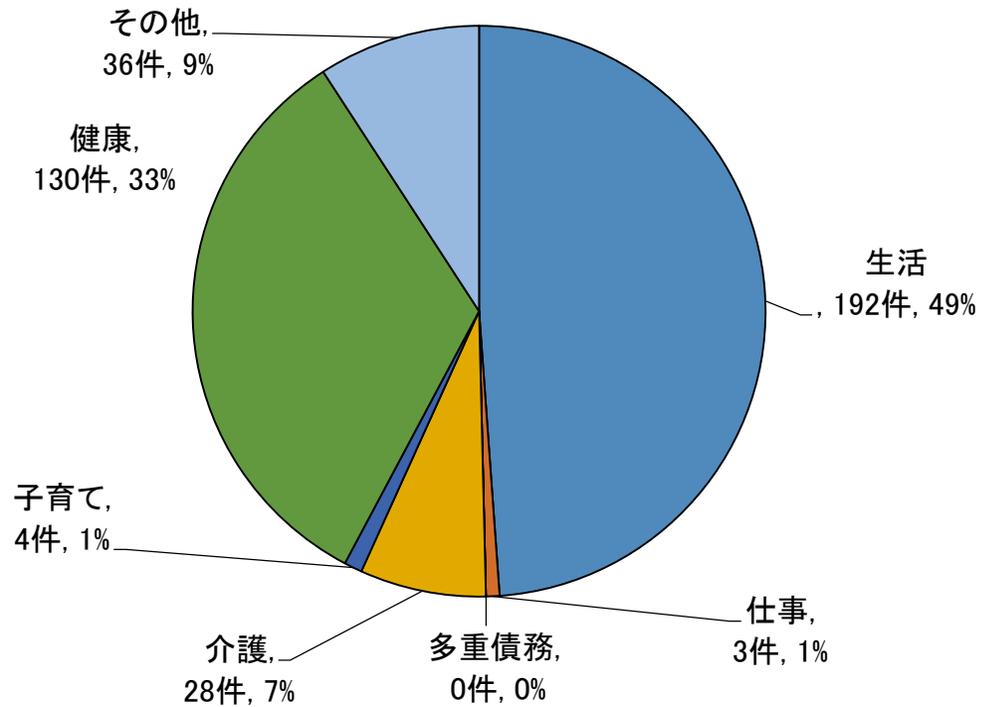


相談者属性：性別

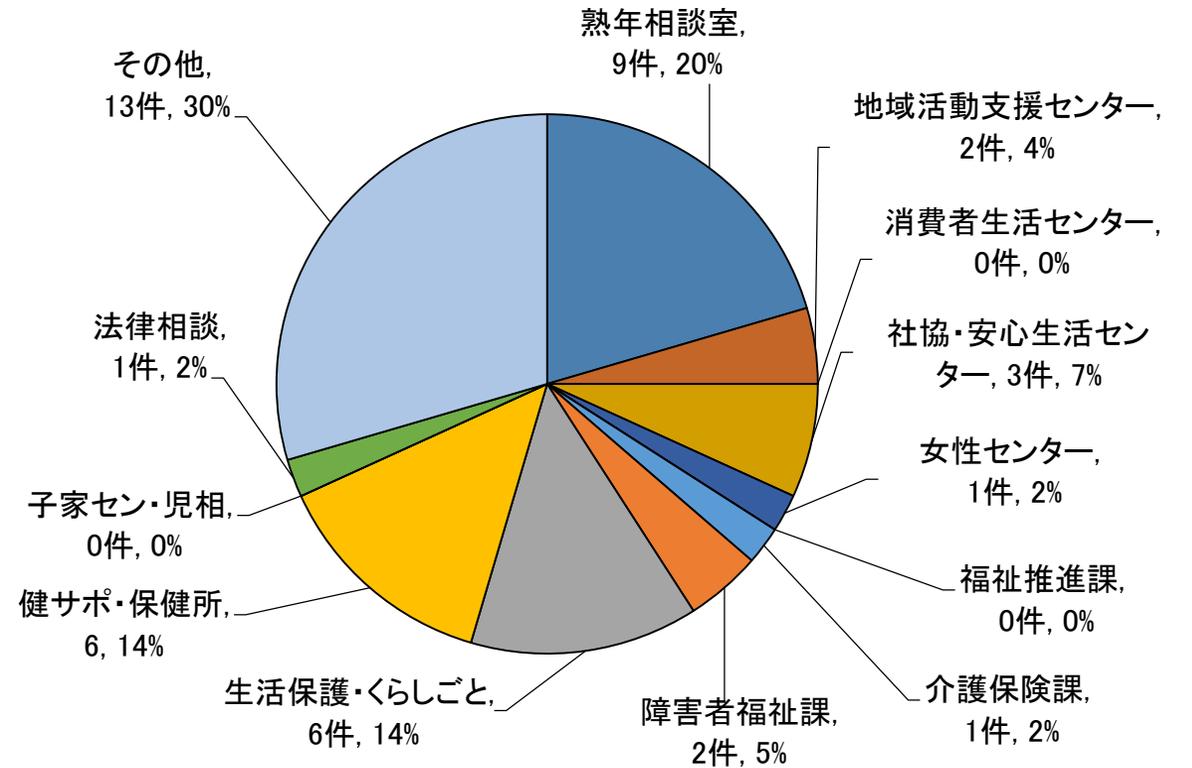


相談属性：内容、つなぎ・紹介先

相談属性：内容



つなぎ・紹介先件数、割合



見守りキーホルダー

ご自宅での
急変時に

外出先で
倒れた時に

身元がわからず
保護された時に

見守りキーホルダーとは？

江戸川区区内にお住いの65歳以上の方、もしくは障害者手帳等をお持ちの方にお渡しするキーホルダー。

キーホルダーを申請する際に、ご自身の住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、緊急連絡先、かかりつけ医療機関、持病、内服薬などを登録。

お一人お一人、キーホルダーには、番号が記載されており、その番号をもとに、外出先での急変時や身元がわからず保護された時などに、警察や消防、医療機関、熟年相談室からの照会にお答えできるもの。

キーホルダーの裏面には、配布されたなごみの家の連絡先と夜間対応の電話番号が記載されている。なごみの家の休館日や夜間帯にも対応できるような24時間対応のものになっている。



身近な相談先
お気軽にご相談ください(無料)

なんでも相談
なごみの家 松江北 (社会福祉協議会)
火曜～日曜 午前9時～午後5時30分
3652-4753

在宅医療に関する電話相談
江戸川区医師会
夜間・早朝 午後9時～翌6時
月曜・祝日・年末年始 午前9時～午後5時
6240-5535

介護に関する24時間電話相談
なぎさ和楽苑 3675-7676
森 山 5622-0556

※ご相談内容は、ご本人の承諾なしに他に知らせる事はありません。
江戸川区社会福祉協議会 江戸川区医師会

SOSシート

氏名	姓	名	生	年	月	日	明	大	部
住所									
緊急時は下記へご連絡をお願いします									
緊急連絡先									
氏名				職	柄				
電話									
住所									
氏名				職	柄				
電話									
住所									
かかりつけ医療機関									
医療機関名	() (科)								
主治医名									
住所									
電話									

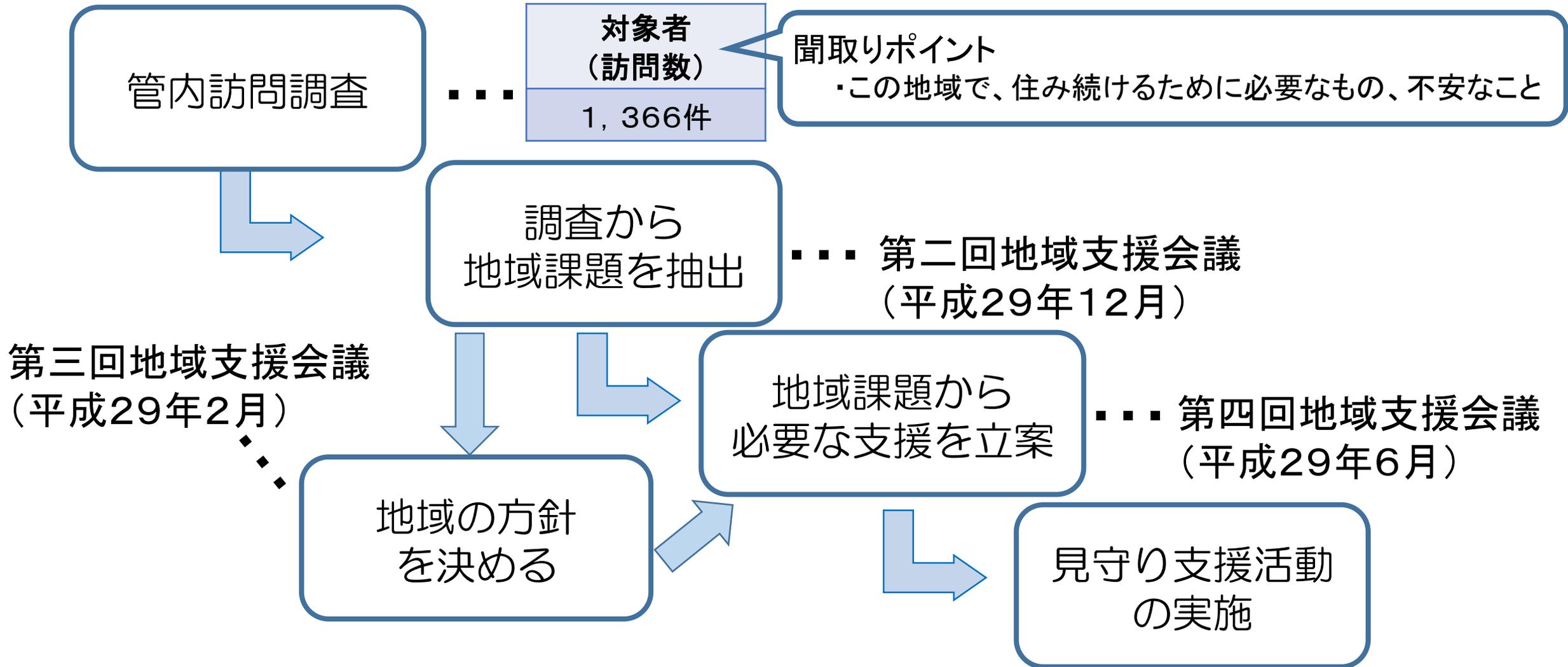
なごみの家 松江北 3652-4753

地域のネットワーク

- 個人、医師会などの医療・介護事業者、町会・自治会、民生・児童委員、警察・消防などが地域の皆さんのために協力関係を築き、支えあい、助けあいの支援を行う。
- 地域支援会議という地域の方々の相互連携の場として設けている。地域課題解決のため、メンバーの皆様と話し合いながら進めていく。



- 訪問調査でニーズを把握し、地域支援会議でネットワーク構築を目指す。



見守り支援活動実施について

- これまでの地域課題をまとめているとまずは、見守り支援活動が重要であるということが明らかとなった。
- 対象や内容の具体的な部分を地域の皆さま、なごみの家登録ボランティアに声かけをし、立ち上げ委員会を作り、活動に向けて作り込んでいく。
- 見守り支援活動をはじめてみて、秋ごろに第五回地域支援会議で報告する。

順位	ご意見、ご要望、不安項目	地域の皆さま でできること	関係機関で できること	行政で できること
1	災害時(水害)が心配。避難が不安、避難場所が遠い、分かりにくい。水害対策の充実	○	○	○
2	急病時の対応が不安(付き添い)		○	○
3	病気・健康面の不安		○	○
4	家事援助の手伝い		○	
5	収入(金銭面)が不安の為、援助が欲しい			○
6	有料老人ホームが欲しい			○
7	松島地区になごみの家(サロンスペース)、認知症カフェが欲しい	○	○	
8	スーパー等が無く買い物が大変、宅配(食材販売)車が来たら便利	○	○	
9	時々、見守り訪問して欲しい	○		
10	家を片付けたい、不用品片付け		○	
				
松江北エリアで優先的に取り組むもの				
時々、見守り訪問をして欲しい ⇒ 見守り支援活動				

会議参加者の感想

- 今まで3回の会議に参加させていただいて、自由闊達な意見というか、色々な情報をいただいて、色々な方法を皆さんで考えていて、こんなにわかりやすく表にさせていただいたことにまず、感謝申し上げます。今までやって、発表していたという、ちょっとプレッシャーを感じる部分も多分あったと思うんですね。皆さん方、発表される方もいらしたと思うんです。今回はそれを見事に整理されて、こういったことが順番になっているんだなというのが本当によくわかりました。
- この会議では、段階を踏んで、見える化していただいて、きちっとその課題まで持ってこられたということが本当にわかりやすい地域課題を見いだせるということで、本当に素晴らしいと感じておりました。
- 本当にこのなごみの家松江北が出来てですね、1年たってそこに関わってくださっている職員含め皆さんの手で作り上げているということが、肌を感じる丸1年でした。すごく今後も江戸川区でたくさん作っていくことなので、モデルケースとしてどんどん良いなごみの家を作っていただきたいなと思っております。

なごみの家は、誰もが住み慣れた地域で最期まで暮らし続けられるように、支える人と支えられる人が相互に助け合うような多世代循環型の「地域まるごと支えあいの仕組み」を作っていくことが使命である。

普段から来所されている、ある子育て中の30代前半のお母さんが、保育園に通い出した娘のために浴衣を縫おうと始められた。自身で作成されていたが、縫い方が分からず、進まなかったところで、なごみの家に行けば誰か出来る人がいるだろうと生地をもって来所された。その方の予想通り、来所中の年配の女性が教えてくれたり、散歩途中の方が、覗き込み、中に入って手伝ってくれたりして、同様の事が数日間つづき、見事完成に至った。なごみの家が無ければ生まれなかった世代を超えた交流があったと実感した機会になった。この様な、地域の輪を広げていきたい。